

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

3. 観光・レジャー施設

【温泉保養・宿泊施設】

(1) 概要

温泉保養・宿泊施設は、市内に 17 施設ありますが、そのうち 13 施設は、合併により旧町村が整備した施設を引き継いだものです。

施設の形態は、宿泊施設が 12 施設、日帰り施設が 5 施設となっており、平成 24 年度の利用者数は、全体で約 73 万人となっています。

主な施設の概要は、温湯温泉利用施設（湯～ぱれあ）は、温泉を利用した心身の健康維持・増進、世代間のふれあい交流の場として、地域の活性化、高齢者の福祉の増進及び地域福祉活動の促進を図るため、2006 年（平成 18 年）にPFI事業（※）として整備した施設です。

アゼイリア飯綱は、1980 年（昭和 55 年）に雇用・能力開発機構（現在は廃止）が建設した施設を、2002 年（平成 14 年）に市が取得したものです。

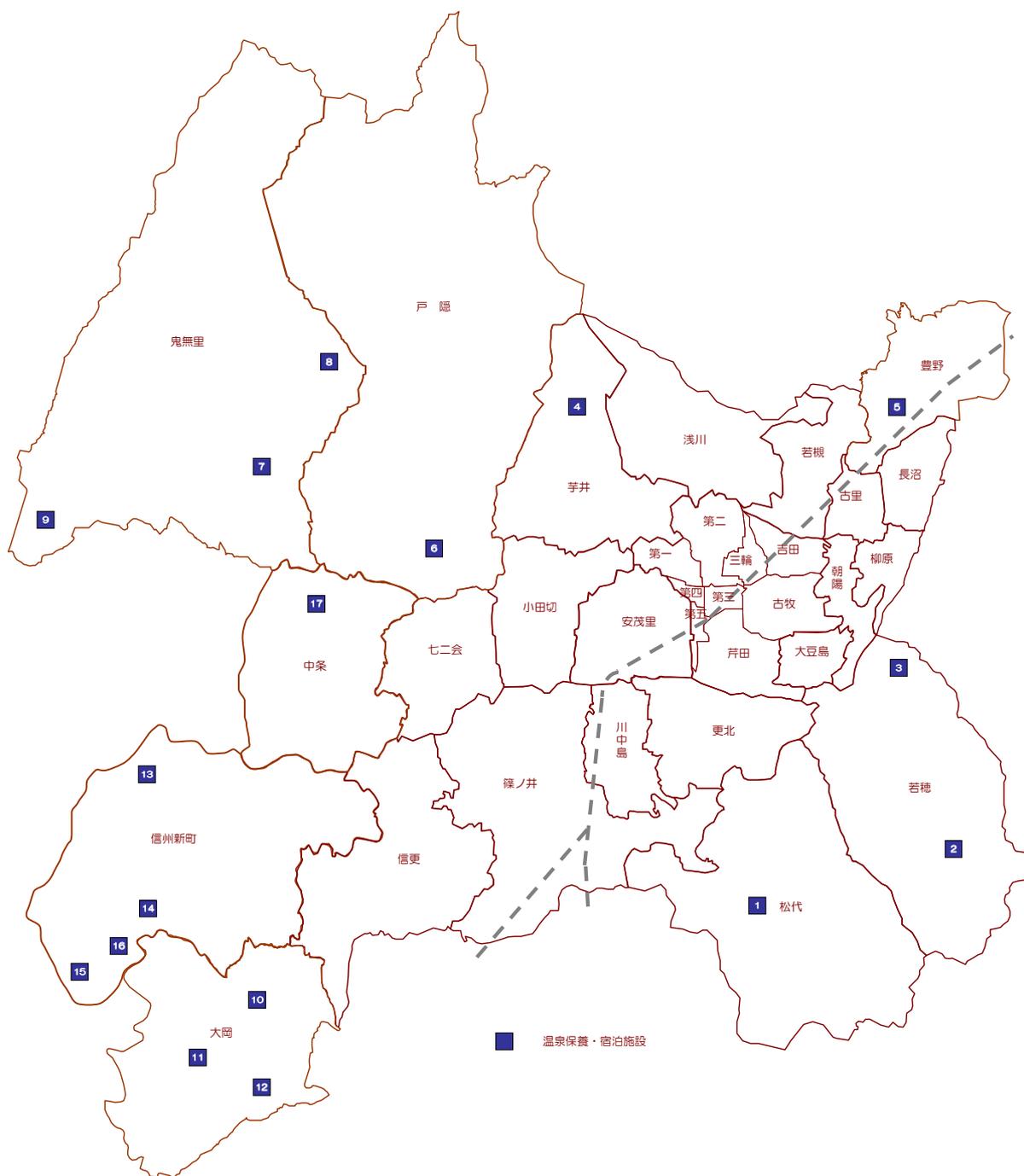
保科温泉は、2010 年（平成 22 年）9 月末まで「国民宿舎永保荘」として保科財産区が運営していましたが、財産区の解散により、宿泊事業を廃止するとともに、若穂老人憩の家を併設し、日帰り温泉施設として運営しています。

※PFI とは…（Private Finance Initiative：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）の略で、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。本市では唯一、温湯温泉施設（湯～ぱれあ）に導入しています。

温泉保養・宿泊施設一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	施設形態
1 松代荘	松代	単独	指定	1998年10月	3,823	1	S造	宿泊
2 保科温泉	若穂	複合	指定	1995年3月	3,530	2	S造	日帰り
3 温湯温泉利用施設	若穂	単独	指定	2006年3月	2,377	2.B1	S造	日帰り
4 アゼイリア飯綱	芋井	単独	民間	1980年6月	6,167	3.B1	RC造	宿泊
5 豊野温泉りんごの湯	豊野	単独	指定	2004年5月	2,532	2	S造	日帰り
6 戸隠交流集会施設	戸隠	複合	指定	2000年6月	1,044	1	W造	日帰り
7 鬼無里ふるさとの館	鬼無里	単独	指定	1990年3月	536	1	W造	宿泊
8 品沢高原観光施設	鬼無里	単独	直営	1970年12月	490	2	W造	宿泊
9 鬼無里の湯	鬼無里	単独	指定	2003年7月	2,184	1.B1	S造	宿泊
10 大岡温泉	大岡	単独	指定	2001年11月	299	1	W造	日帰り
11 大岡アルプス展望ふれあいセンター	大岡	単独	指定	1993年4月	475	2	W造	宿泊
12 聖山パノラマホテル	大岡	単独	指定	1997年11月	2,040	2	W造	宿泊
13 信州新町萩野森の家	信州新町	単独	指定	1992年3月	406	1	W造	宿泊
14 信州新町信州犀川交流センター	信州新町	複合	直営	1976年4月	1,729	2.B1	RC造	宿泊
15 信州新町青少年旅行村	信州新町	単独	指定	1976年3月	425	2	W造	宿泊
16 さぎり荘	信州新町	単独	指定	1990年10月	2,400	2	W造	宿泊
17 やきもち家	中条	単独	指定	1989年3月	1,270	2.B1	RC造	宿泊
合計					31,727			

温泉保養・宿泊施設の配置状況



※ 図表の番号は、温泉保養・宿泊施設一覧表の番号と対応しています。

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

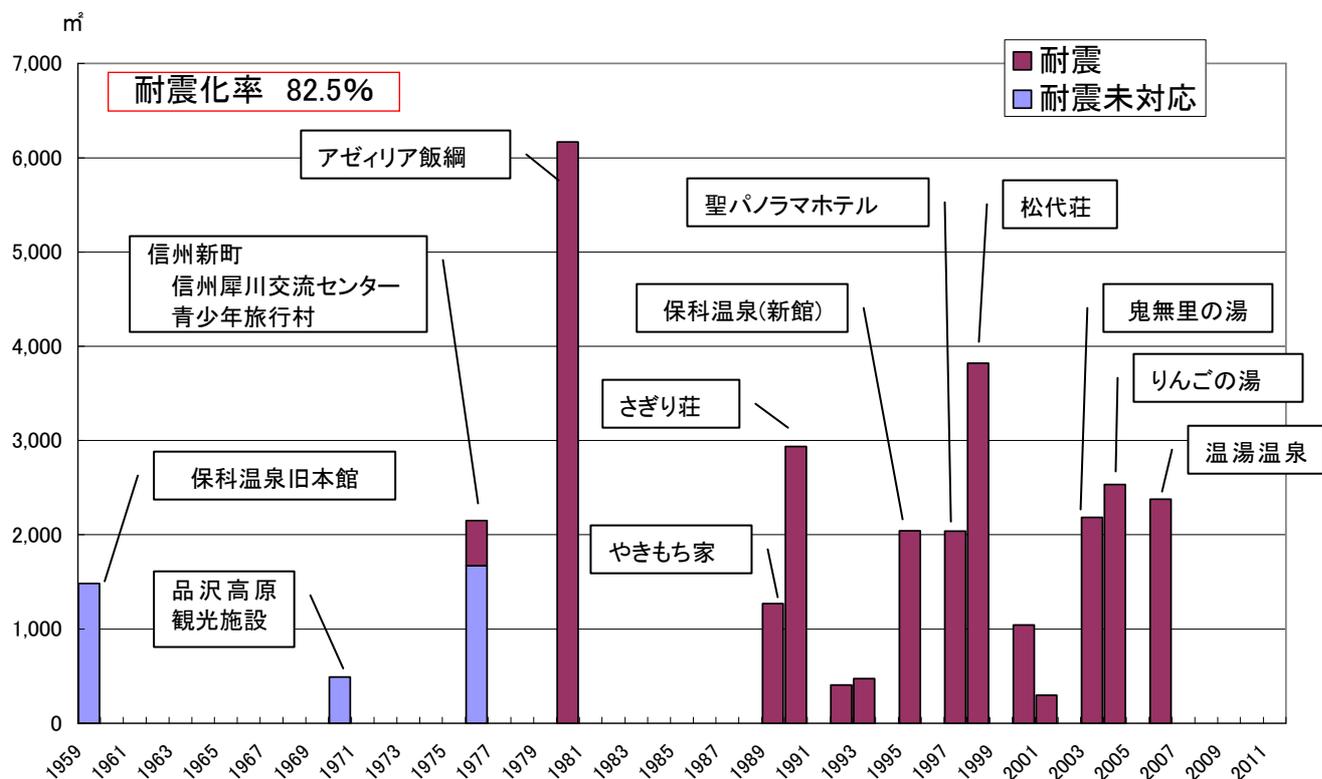
(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、1959年(昭和34年)に建設された保科温泉(旧本館)が最も古く、築54年が経過しています。

その他に、築30年以上経過している建物は、品沢高原観光施設、信州新町信州犀川交流センター、信州新町青少年旅行村、アゼイリア飯綱です。

なお、温泉保養・宿泊施設の耐震化率は82.5%となっています。

温泉保養・宿泊施設の建設年別延床面積



(3) 施設の利用状況

平成 21 年度から平成 24 年度の温泉保養・宿泊施設全体の年間利用者数をみると、年度によって変動はありますが、4年間の平均利用者数は約 73.7 万人になります。

なお、宿泊施設と日帰り施設の利用者の割合は、日帰り施設の利用者が6割近くを占めています。

温泉保養・宿泊施設の利用者数

施設名称	年間利用者数(人)				
	21年度	22年度	23年度	24年度	平均
松代荘	161,553	170,570	172,797	178,972	170,973
アゼイリア飯綱	29,842	25,515	31,664	33,282	30,076
鬼無里ふるさとの館	833	747	645	435	665
品沢高原観光施設	2	15	13	6	9
鬼無里の湯	28,388	27,412	27,555	25,100	27,114
大岡アルプス展望ふれあいセンター	1,848	1,410	1,915	1,319	1,623
聖山パノラマホテル	18,052	12,123	11,446	11,084	13,176
信州新町萩野森の家	206	369	209	185	242
信州新町信州犀川交流センター	1,766	581	930	763	1,010
信州新町青少年旅行村	368	460	524	330	421
さぎり荘	55,069	51,928	50,583	56,490	53,518
やきもち家	10,149	10,216	9,207	9,973	9,886
宿泊施設(12施設)計	308,076	301,346	307,488	317,939	308,713
保科温泉	-	24,682	45,115	45,776	38,524
温湯温泉利用施設	141,958	139,186	146,420	144,510	143,019
豊野温泉りんごの湯	255,948	231,095	209,399	196,896	223,335
戸隠交流集会施設	12,606	12,694	14,398	13,581	13,320
大岡温泉	23,291	21,479	19,043	14,691	19,626
日帰り施設(5施設)計	433,803	429,136	434,375	415,454	428,192
合計	741,879	730,482	741,863	733,393	736,904

※ 保科温泉は、2010年(平成22年)10月から日帰り施設として運営しています。

※ 宿泊施設の利用者数は、日帰り客を含んでいます。

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

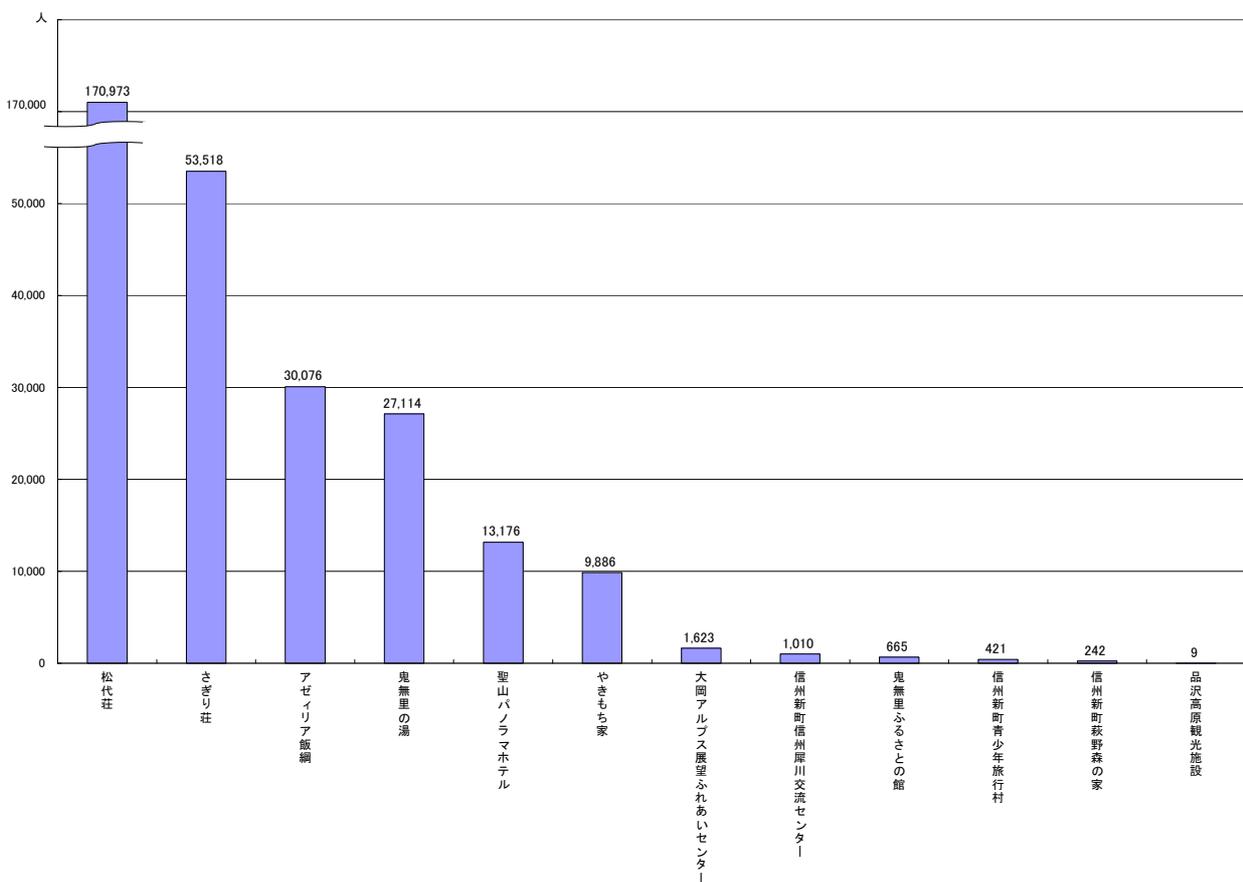
① 宿泊施設の利用状況

宿泊施設(12施設)の4年間の平均利用者数は、約30.9万人になります。

平均利用者数が最も多い松代荘は約17.1万人、次に、さぎり荘の約5.4万人、アゼイリア飯綱の約3万人となっています。

なお、品沢高原観光施設については、利用者の減少などから、現在、鬼無里地区住民自治協議会などと施設廃止に向けた協議を行っています。また、大岡アルプス展望ふれあいセンターは、民間への譲渡も含め、施設の有効活用について検討を進めています。

宿泊施設の平均利用者数 (H21年度～H24年度)



品沢高原観光施設

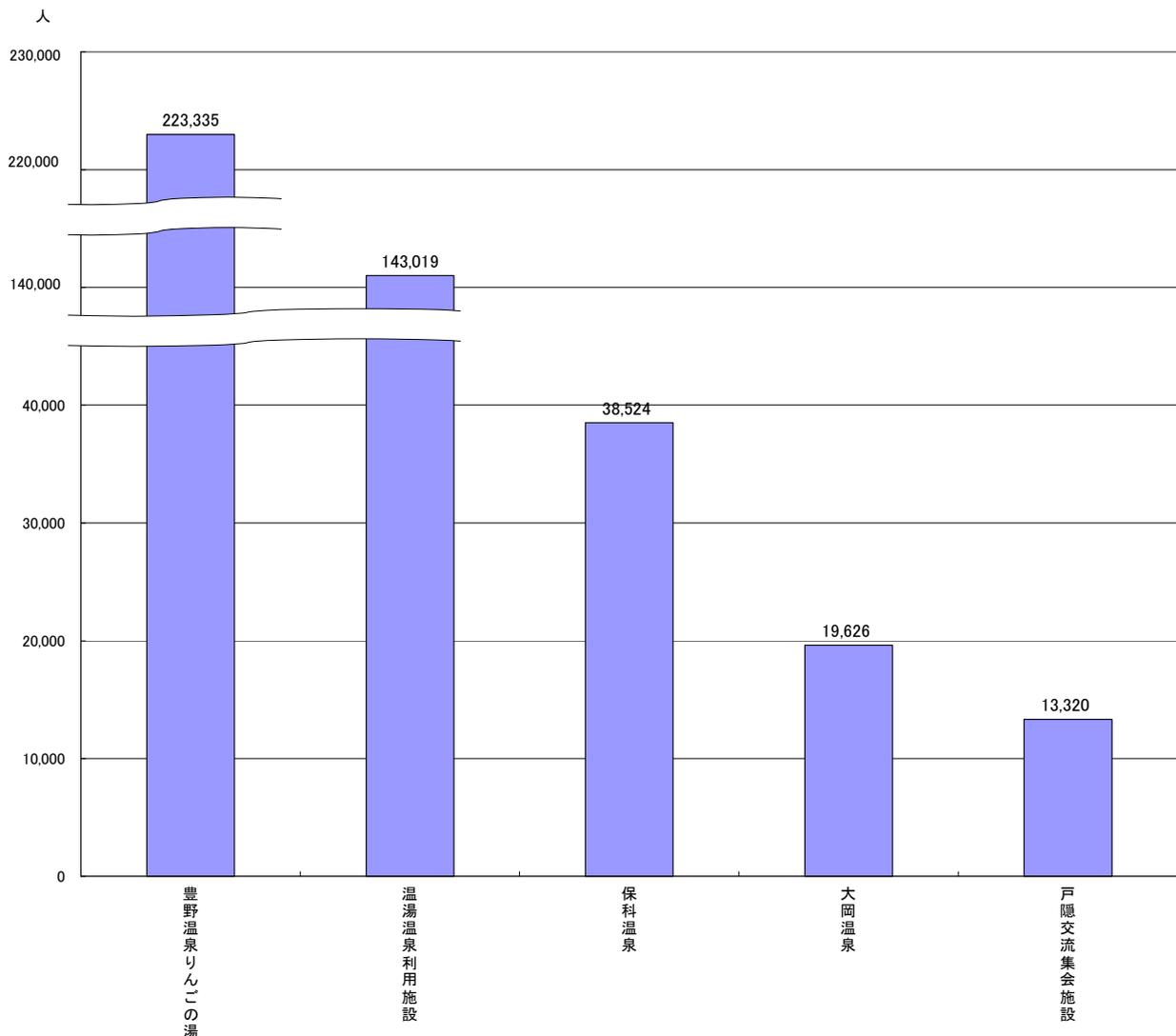
② 日帰り施設の利用状況

日帰り施設(5施設)の4年間の平均利用者数は、約 42.8 万人になります。

平均利用者数が最も多い豊野温泉りんごの湯は約 22.3 万人です。次に、温湯温泉利用施設が約 14.3 万人となっています。

なお、豊野温泉りんごの湯は、源泉の自噴量の減少や送水管の不具合による露天風呂の休止などから利用者数が減少していましたが、平成 25 年度に入って改修工事を行ったことから、今後、利用者数の回復が見込まれます。また、大岡温泉については、地区の交流拠点として重要な施設であることから、利用者の増加に向けた支援や運営の見直しを地元と検討しています。

日帰り施設の平均利用者数 (H21 年度～H24 年度)



第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

(4) 稼働の状況

宿泊施設の客室稼働率を見ると、最も高い施設は松代荘が 81.6%、やきもち家が 47.2%、アゼイリア飯綱が 40.6%などとなっています。最も低い施設は信州新町萩野森の家の 0.2%となっています。

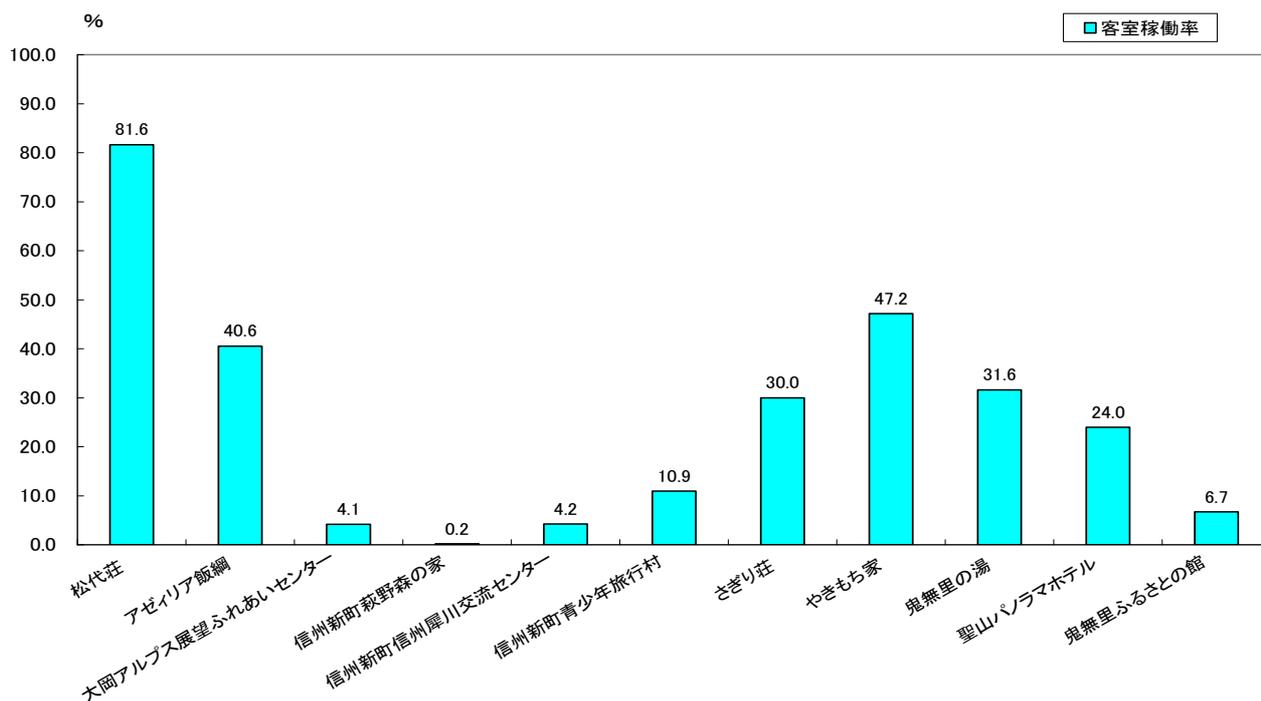
※ 稼働率＝1年間に利用された部屋数／1年間に利用できる最大部屋（部屋数×営業日数）

宿泊施設の客室稼働率

施設名称	客室数	年間利用可能客室数 (客室数×営業日数)①	年間利用された 客室数②	客室の稼働率 ②/①
松代荘	36	12,966	10,610	81.6%
アゼイリア飯綱	31	11,315	4,589	40.6%
鬼無里ふるさとの館	7	1,092	73	6.7%
鬼無里の湯	13	4,745	1,500	31.6%
大岡アルプス展望ふれあいセンター	4	1,460	60	4.1%
聖山パノラマホテル	10	3,650	875	24.0%
信州新町萩野森の家	5	965	2	0.2%
信州新町信州犀川交流センター	10	3,650	154	4.2%
信州新町青少年旅行村	6	918	100	10.9%
さぎり荘	10	3,650	1,095	30.0%
やきもち家	9	3,285	1,550	47.2%

※ 品沢高原観光施設は除いています。

※ 萩野森の家、青少年旅行村については、コテージなどの部屋を含んでいます。



(5)コストの状況

①概要

平成 24 年度の温泉保養・宿泊施設の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費は約 5.6 億円で、事業運営費は約 7.6 億円となっています。

また、建物の減価償却費を含めたトータルコストは、約 14.9 億円となっています。

温泉保養・宿泊施設のコスト

(金額単位：千円)

I 現金収支を伴うもの		施設名	温泉保養・宿泊施設
		施設数	17
【コストの部】		延床面積	31,727
施設維持管理費	修繕費		13,571
	工事請負費		14,354
	光熱水費		219,571
	建物管理委託料		27,662
	人件費(概算)		163,150
	その他の経費		117,281
	施設維持管理費 計		555,589
事業運営費	人件費(概算)		306,824
	業務委託料		148,889
	その他物件費等		300,478
	事業運営費 計		756,191
現金収支を伴うコスト計 ①			1,311,780
【収益の部】			
利用料金等	市		54,888
	指定管理者		973,894
収益計 ②			1,028,782
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③			178,059
III 総括			
トータルコスト(①+③) ④			1,489,839
収支差額(④-②)			461,057

第5章 施設分類別の状況

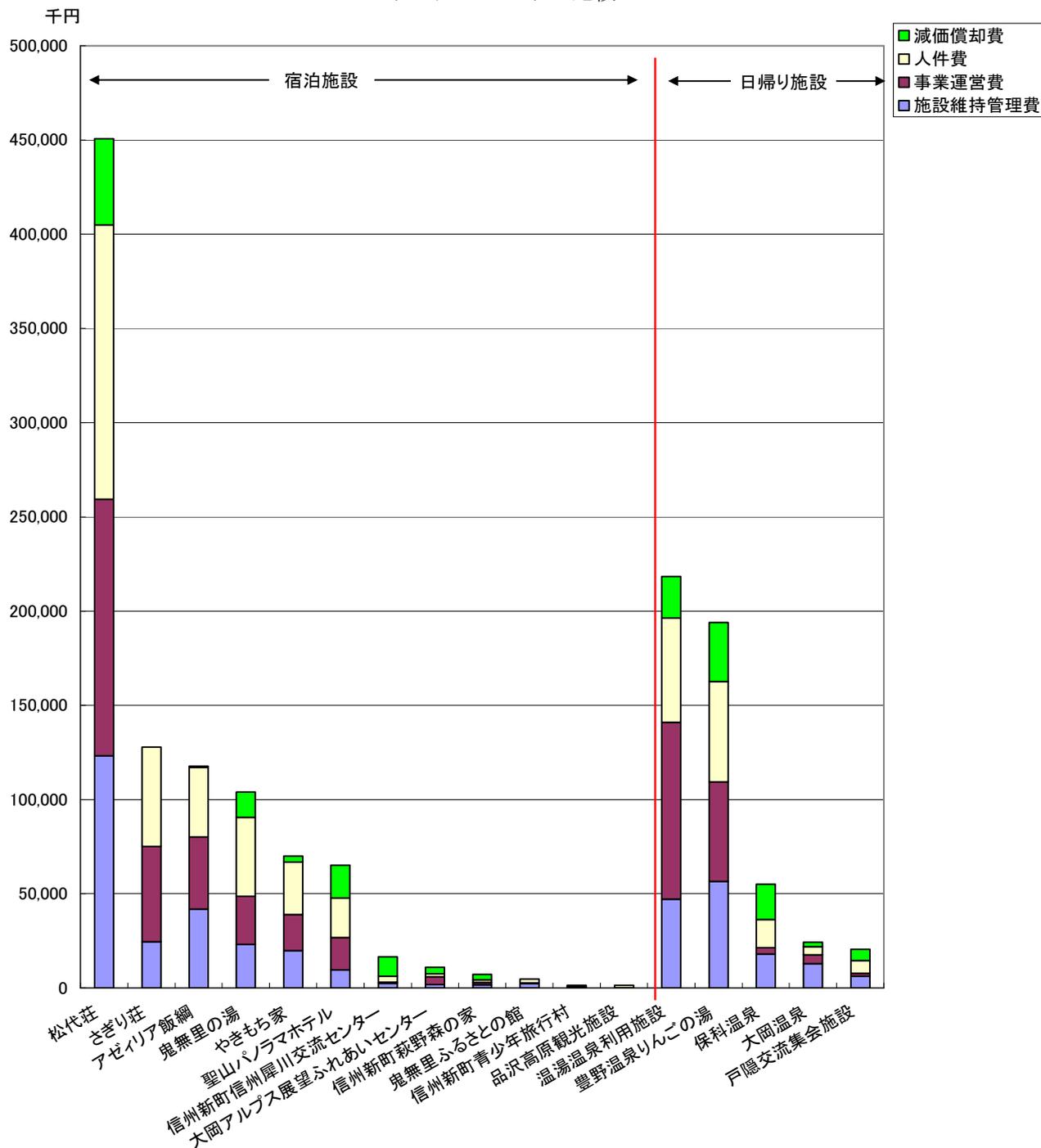
3. 観光・レジャー施設

②施設別のトータルコストの状況

平成 24 年度の施設別のトータルコストを見ると、宿泊施設では、松代荘が最も高く約 4.5 億円、さぎり荘が約 1.3 億円、アゼイリア飯綱が約 1.2 億円です。なお、さぎり荘、アゼイリア飯綱の建物は、法定耐用年数を経過しており、減価償却費はありません。

日帰り施設では、温湯温泉利用施設が約 2.2 億円、豊野温泉りんごの湯が約 1.9 億円となっています。

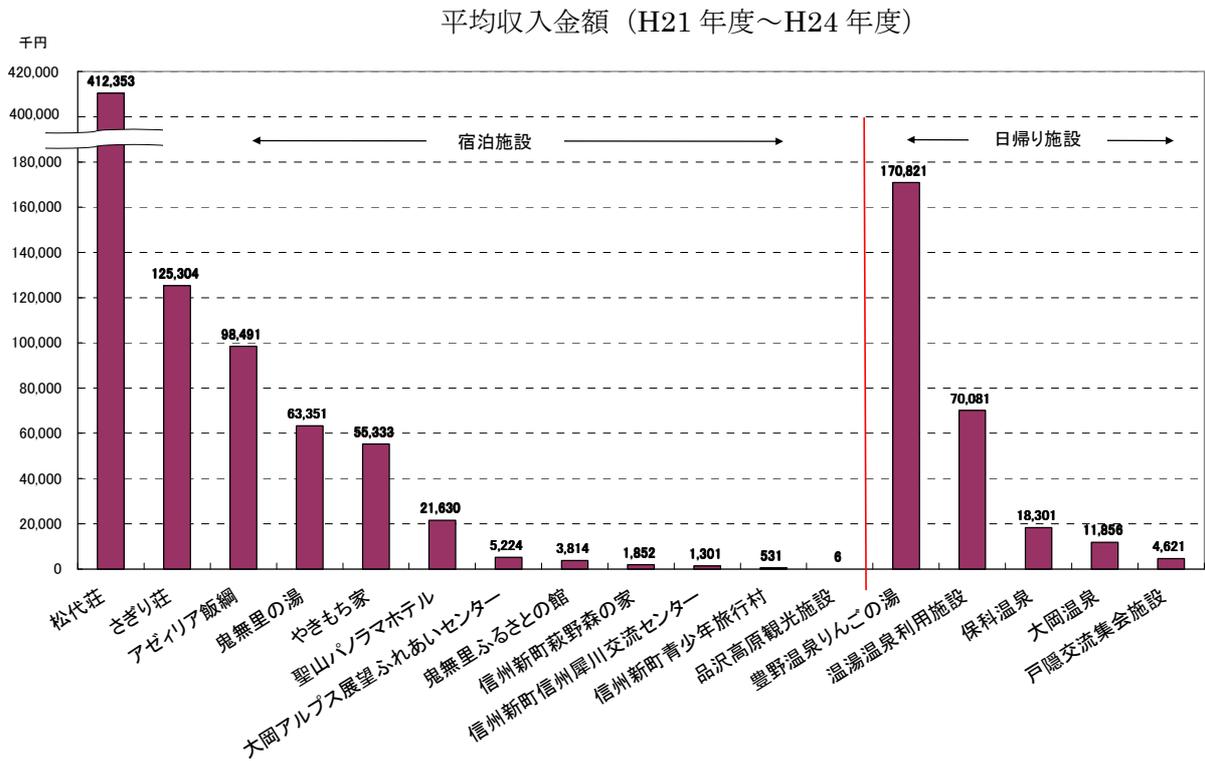
トータルコストの比較



③収入の状況

平成 21 年度から平成 24 年度の平均の収入金額は、約 10 億円になります。

施設別に見ると、宿泊施設では、松代荘が約 4.1 億円、さぎり荘が約 1.2 億円、アゼリア飯綱が約 1 億円となっており、日帰り施設では、豊野温泉りんごの湯が約 1.7 億円、温湯温泉利用施設が約 0.7 億円となっています。



温湯温泉利用施設



豊野温泉りんごの湯



さぎり荘



やきもち家

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

④利用者1人当りのコスト

平成 21 年度から平成 24 年度の4年間の平均トータルコストと平均利用者数から1人当たりのコストをみると、ア、イのようになります。

ア 宿泊施設

宿泊施設の利用者 1 人当たりのコストをみると、品沢高原観光施設が約 23.8 万円／人と最も高く、信州新町萩野森の家が約 3 万円／人、信州新町信州犀川交流センターが約 1.6 万円／人となっています。これは利用者数が少ないことが影響しています。

宿泊施設の 1 人当たりのコスト (H21 年度～H24 年度)

施設名	平均トータルコスト (千円)	平均利用者数 (人)	1人当たりのコスト (円／人)
松代荘	456,407	170,973	2,670
アゼイリア飯綱	135,889	30,076	4,520
鬼無里ふるさとの館	4,505	665	6,780
品沢高原観光施設	2,137	9	237,550
鬼無里の湯	105,278	27,114	3,880
大岡アルプス展望ふれあいセンター	10,104	1,623	6,230
聖山パノラマホテル	67,418	13,176	5,120
信州新町萩野森の家	7,151	242	29,520
信州新町信州犀川交流センター	16,416	1,010	16,250
信州新町青少年旅行村	1,059	421	2,520
さざり荘	128,895	53,518	2,410
やきもち家	68,646	9,886	6,940

※ さざり荘は、H22～24 の 3 ヶ年で平均値を算出しています。



保科温泉



松代荘

イ 日帰り施設

日帰り施設の利用者1人当たりのコストをみると、温湯温泉利用施設と保科温泉が約1,600円/人、戸隠交流集会施設で約1,500円/人、大岡温泉で約1,300円/人、豊野温泉りんごの湯が約1,000円/人となっています。

日帰り施設の1人当たりのコスト（H21年度～H24年度）

施設名	平均トータルコスト (千円)	平均利用者数 (人)	1人当たりのコスト (円/人)
保科温泉	61,304	38,524	1,590
温湯温泉利用施設	226,333	143,019	1,580
豊野温泉りんごの湯	212,620	223,335	950
大岡温泉	25,722	19,626	1,310
戸隠交流集会施設	19,510	13,320	1,470

※ 保科温泉は、日帰り施設となったH23～24の2カ年の平均を算出しています。

(6) まとめ

温泉保養・宿泊施設17施設のうち13施設は、合併前の旧町村により地域産業の振興や都市住民との交流など地域の活性化を担う施設として整備されたものです。

その多くは中山間地域に位置していますが、建設当時の設置目的が薄れ、稼働率が極めて低い施設や利用者1人当たりのコストが高い施設があり、中には利用状況等を踏まえ、廃止や移管などに向けて、地元と協議を行っている施設もあります。

築30年以上経過している建物は、保科温泉旧本館、品沢高原観光施設、信州新町信州犀川交流センター、信州新町青少年旅行村及びアゼリア飯綱の5施設です。

平成21年度から平成24年度の4年間の平均利用者数が最も多い施設は、宿泊施設では、松代荘が約17.1万人、日帰り施設では、豊野温泉りんごの湯が約22.3万人となっています。

温泉保養・宿泊施設については、今後、人口減少や少子高齢化が進む中で、市域全体のバランスや地域特性、各施設の施策推進上の位置づけなどを考慮しながら、適正な配置や規模、効率的な施設運営などについて、検討していく必要があります。

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

【スキー場、キャンプ場施設】

(1) 概要

本市には、現在、2つのスキー場と4つのキャンプ場があります。

スキー場は、飯綱高原スキー場に加え、合併により旧戸隠村の戸隠スキー場と、旧大岡村の聖山パノラマスキー場を引継ぎましたが、聖山パノラマスキー場は、平成 21 年度に廃止しています。

戸隠スキー場は、中・上級者向けのゲレンデを備え、県外客・宿泊型の利用が主流となっています。また、飯綱高原スキー場は、市街地から車で約 30 分と近く、初・中級者向けで、市民をはじめ近隣市町村のファミリー層中心に利用されており、さらなる利用促進を図るため、子供中心に施設・サービスを充実させるなど、スキー場のキッズ化に取り組んでいます。

キャンプ場は、飯綱高原キャンプ場に加え、合併により旧戸隠村の戸隠キャンプ場と荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設、旧大岡村の聖山パノラマオートキャンプ場を引継ぎました。

戸隠キャンプ場は、全国的なアウトドアブームなどから、キャンプ場サイトの拡張やキャンプセンターの建設など施設の再整備等を行い、平成 24 年7月にグランドオープンしました。

スキー場とキャンプ場は、年間利用者数が約 21.4 万人となっており、観光や雇用など地域産業の振興や地域の活性化のための重要な役割を担っています。

スキー場、キャンプ場施設一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	敷地面積 (㎡)	建物延床 面積(㎡)	階層	主たる 構造	利用者数 (人)
1 飯綱高原スキー場	芋井	単独	指定	1994年12月	1,097,400	1,907	2	S造	47,490
2 飯綱高原キャンプ場	芋井	単独	指定	1993年12月	32,991	347	1	W造	4,563
3 戸隠スキー場	戸隠	単独	指定	1989年12月	2,028,000	4,270	2	W造	107,118
4 戸隠キャンプ場	戸隠	単独	指定	2010年12月	153,300	1,696	2	W造	52,360
5 荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設	戸隠	単独	直営	1983年10月	19,193	389	1	W造	1,046
6 聖山パノラマオートキャンプ場	大岡	単独	指定	1997年12月	34,920	150	1	W造	1,909
合計					3,365,804	8,759			214,486

※ スキー場の敷地面積は開発面積です。

※ 飯綱高原スキー場は、リフト駅舎・搬器格納庫・索道、人口降雪設備機械室などです。

戸隠スキー場は、シャルマン戸隠、ゲストハウス岩戸、リフト駅舎・索道などです。

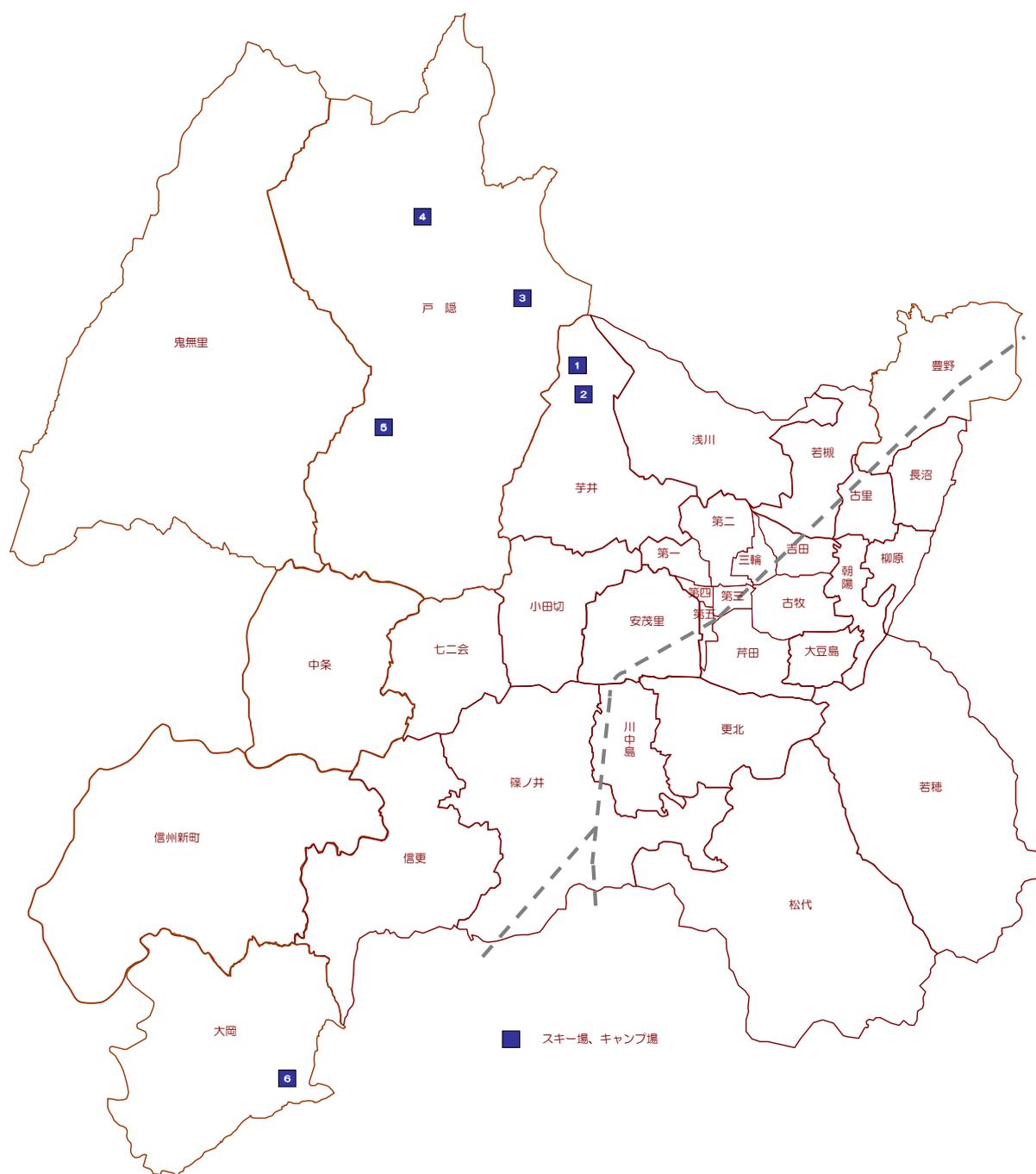
飯綱高原キャンプ場は、バンガロー、ログキャビン、管理棟、公衆トイレなどです。

戸隠キャンプ場は、新キャンプセンター、管理棟、バンガロー、コテージなどです。

荒倉キャンプ場及び長野市戸隠民舞伝習施設は、キャンプセンター、バンガローなどです。

聖山パノラマオートキャンプ場は、シャワーランド・トイレ棟、コテージなどです。

スキー場、キャンプ場施設の配置状況



※ 図表の番号は、スキー場、キャンプ場施設一覧表の番号と対応しています。

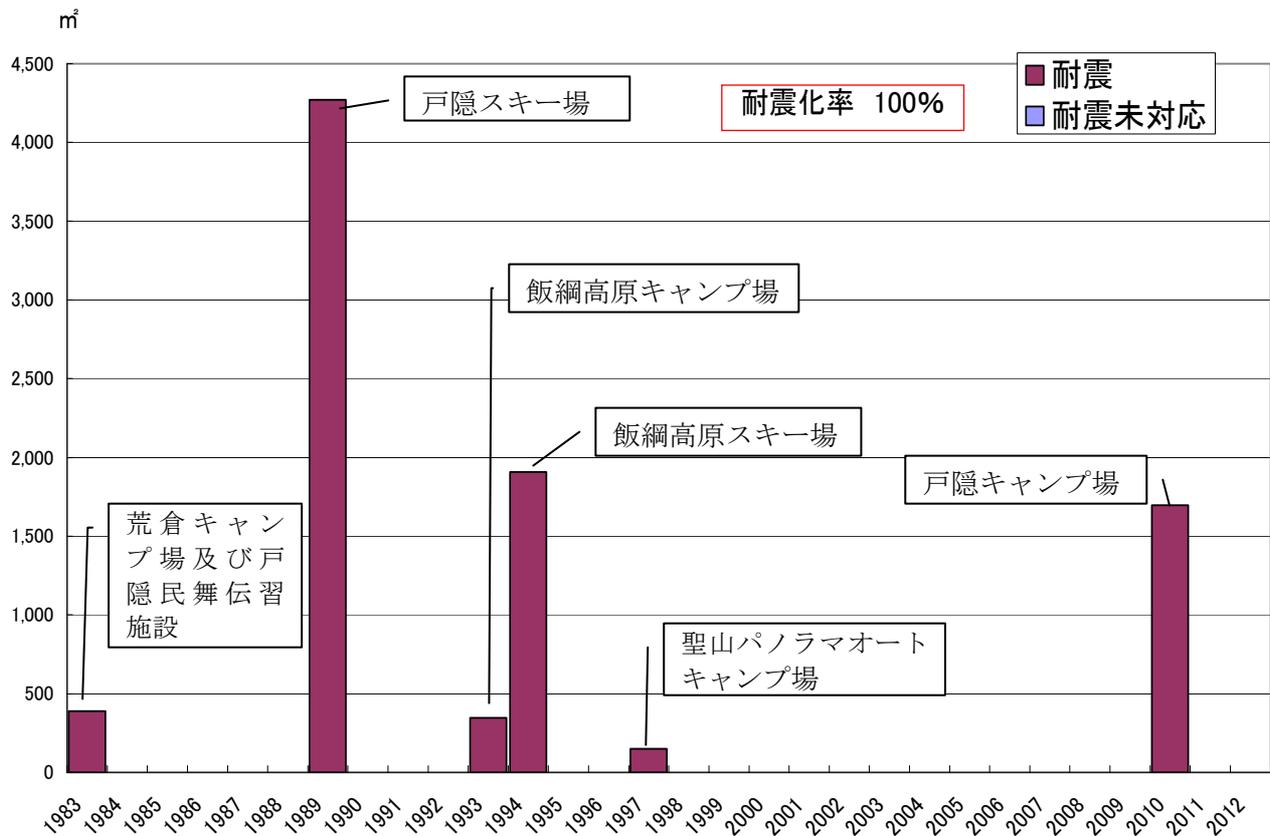
第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、1983年(昭和58年)に整備された荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設が最も古く、直近では、2010年(平成22年)に戸隠キャンプ場のログキャビンなどの改築が行われています。

スキー場、キャンプ場の建設年別延床面積



荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設

(3) 施設の利用状況

スキー場、キャンプ場の利用者数は、天候などに左右されるため、平成 21 年度から平成 24 年度の 4 年間の平均利用者数を見ると、全体で約 20 万人となっています。

全国的にスキー人口が減少する中、スキー場の平均利用者数は、約 14.8 万人となっています。

キャンプ場の利用者数は増加傾向にあります。特に、施設規模が大きく設備等も充実している戸隠キャンプ場は、近年、利用者数が大幅に増加しています。

なお、荒倉キャンプ場については、平成 26 年度からの地元への移管に向けて、協議を進めています。

スキー場、キャンプ場の利用者（H21 年度～H24 年度）

施設名称	年間利用者数(人)				
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	平均
飯綱高原スキー場	55,978	39,389	40,268	47,490	45,781
戸隠スキー場	109,234	100,772	93,674	107,118	102,700
小 計	165,212	140,161	133,942	154,608	148,481
飯綱高原キャンプ場	2,743	3,480	4,382	4,563	3,792
戸隠キャンプ場	40,116	38,003	49,387	52,360	44,967
荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設	1,552	1,098	1,170	1,046	1,217
聖山パノラマオートキャンプ場	999	1,007	1,919	1,909	1,459
小 計	45,410	43,588	56,858	59,878	51,434
合 計	210,622	183,749	190,800	214,486	199,914

※ スキー場の営業は、例年 12 月下旬～翌 3 月下旬、キャンプ場の営業は、例年 4 月下旬～10 月末



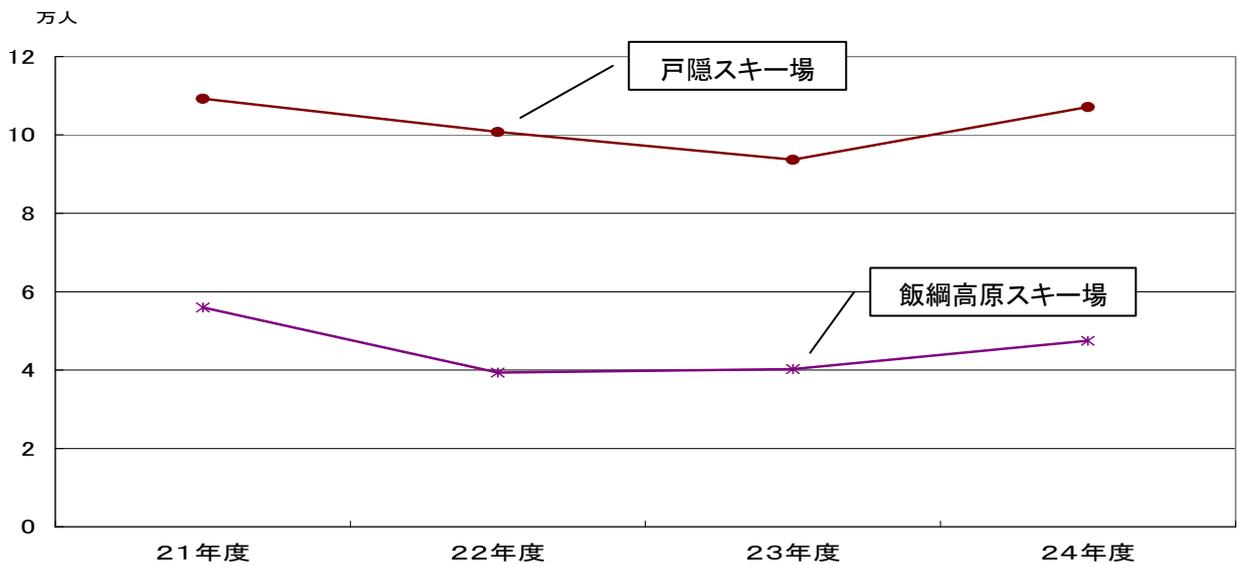
戸隠キャンプ場



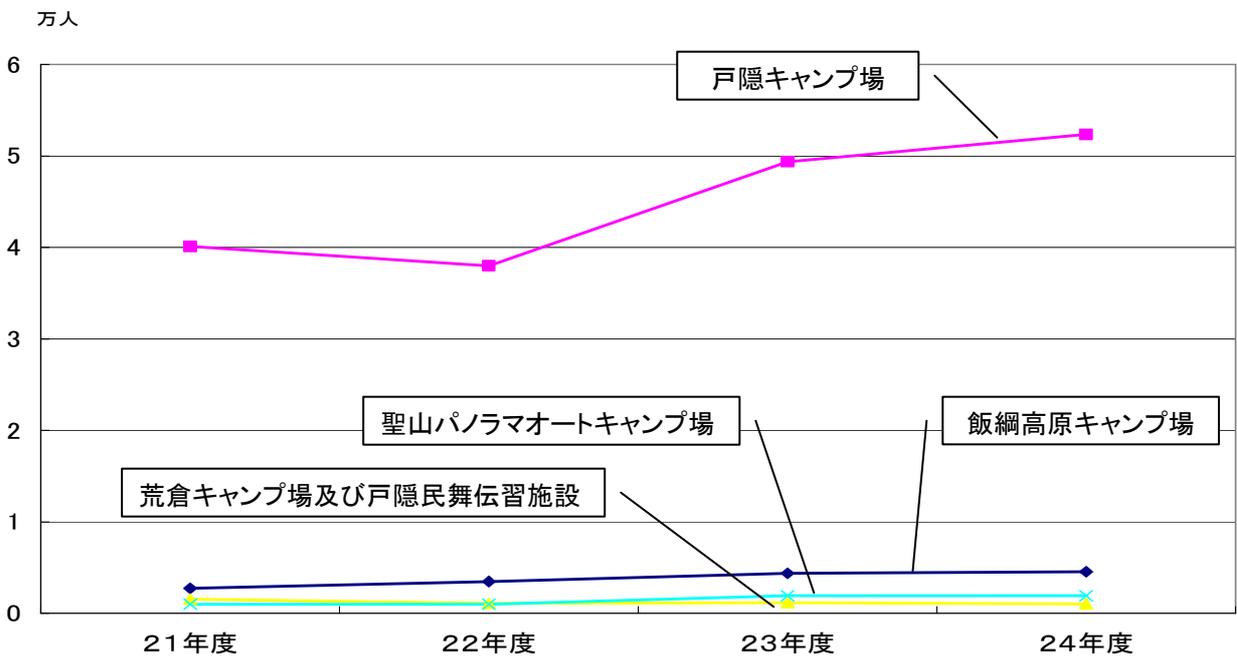
飯綱キャンプ場

第5章 施設分類別の状況
3. 観光・レジャー施設

スキー場の利用者数推移



キャンプ場の利用者数推移



(4)コストの状況

①概要

平成 24 年度のスキー場、キャンプ場6施設の光熱水費や建物管理委託料などの施設維持管理費の合計は約1.4 億円で、事業運営費の合計は約 4.1 億円となっています。

また、利用料金等の合計は、約 4.1 億円となっています。

スキー場、キャンプ場のコスト

(金額単位：千円)

施設名		スキー場	キャンプ場
		2	4
I 現金収支を伴うもの			
【コストの部】			
延床面積		6,177	2,582
施設維持管理費	修繕費	23,527	1,606
	工事請負費	0	462
	光熱水費	62,239	4,651
	建物管理委託料	0	215
	人件費(概算)	5,110	3,069
	その他の経費	39,217	1,672
	施設維持管理費 計	130,093	11,675
事業運営費	人件費(概算)	174,828	25,782
	業務委託料	19,766	13,043
	その他物件費等	143,121	36,109
	事業運営費 計	337,715	74,934
現金収支を伴うコスト計 ①		467,808	86,609
【収益の部】			
利用料金等	市	0	1,164
	指定管理者	330,242	80,076
収益計 ②		330,242	81,240
II 現金収支を伴わないもの			
【コストの部】			
減価償却費 ③		93,589	31,663
III 総括			
トータルコスト(①+③) ④		561,397	118,272
収支差額(④-②)		231,155	37,032

※スキー場は、建物に加えリフトの減価償却費を含みます。

第5章 施設分類別の状況

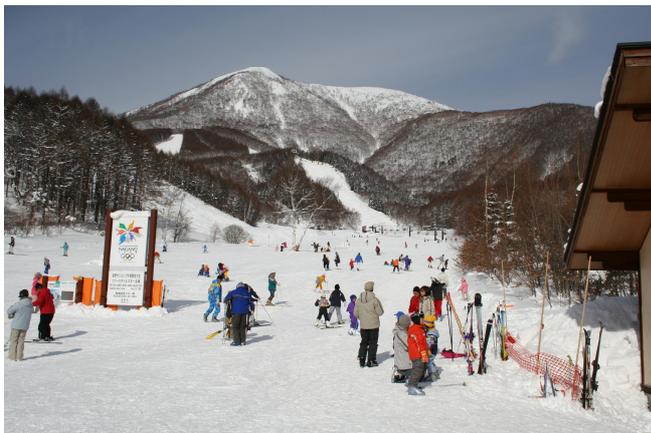
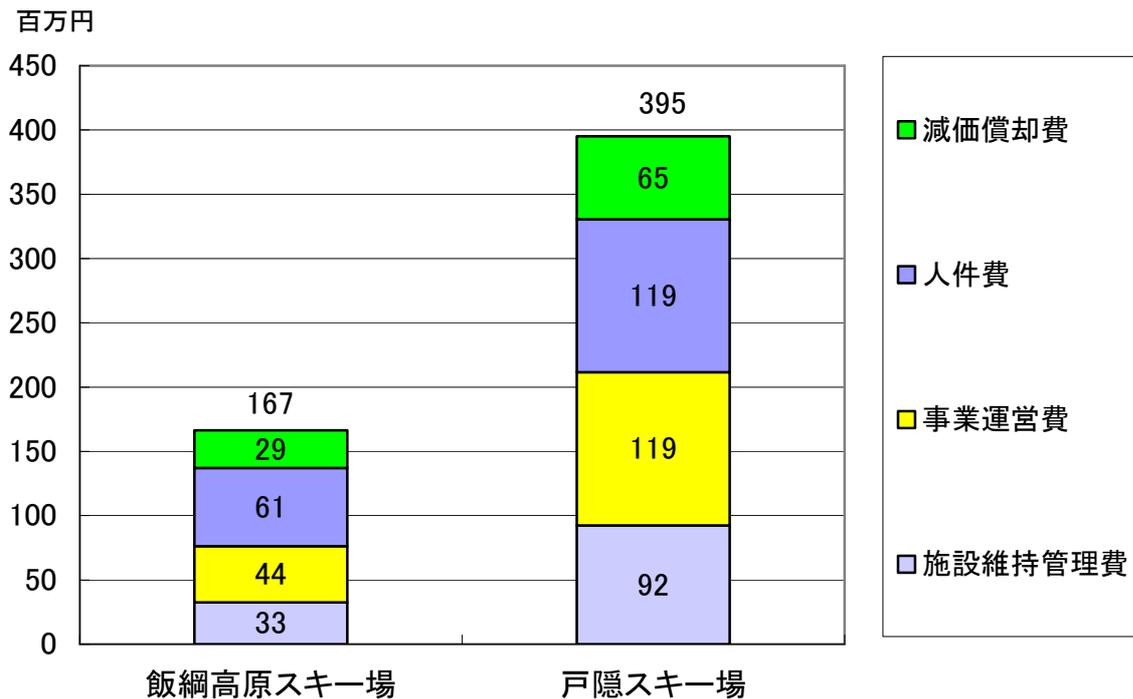
3. 観光・レジャー施設

②施設別のトータルコストの状況

ア スキー場

スキー場のトータルコストは約5.6億円となっています。戸隠スキー場は約4億円、飯綱高原スキー場は約1.7億円となっており、リフト運行やコース整備などにかかる人件費の割合が、大きくなっています。

スキー場のトータルコスト



飯綱高原スキー場



戸隠スキー場

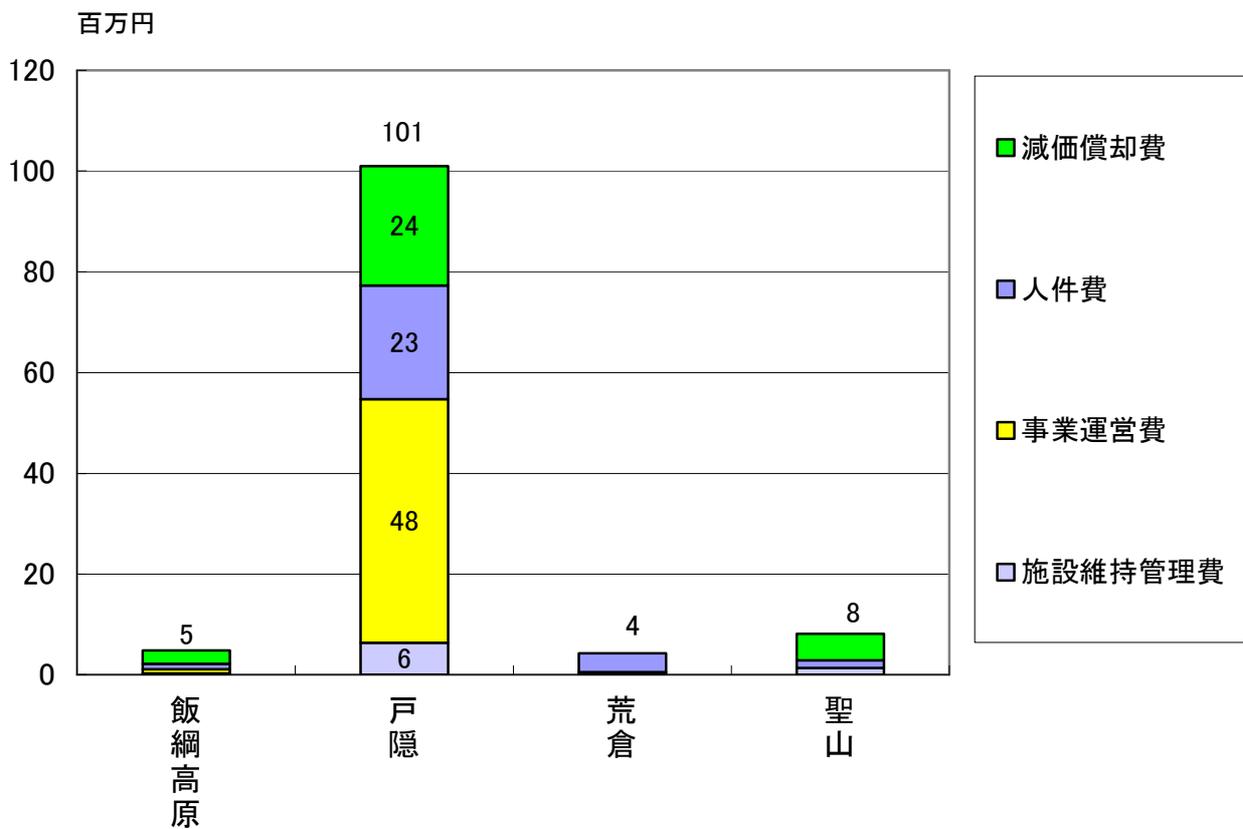
イ キャンプ場

キャンプ場のトータルコストは約 1.2 億円となっており、最も規模が大きく、5万人を超える利用者がある戸隠キャンプ場がその8割強を占めています。

聖山パノラマオートキャンプ場は約 800 万円、飯綱高原キャンプ場は約 500 万円となっていますが、その大半は建物の減価償却費となっています。

なお、荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設は、法定耐用年数を経過しているため、減価償却費はありません。

H24 年度のキャンプ場のトータルコスト



聖山パノラマオートキャンプ場

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

③利用者1人当たりのコスト

ア スキー場

平成 21 年度から平成 24 年度の4年平均の利用者1人当たりのコストは、戸隠スキー場が約 3,830 円／人、飯綱高原スキー場が約 3,700 円／人となっています。

両スキー場の施設規模や設備などにより、トータルコストには 2 倍以上の差がありますが、1 人当たりのコストをみると、ほぼ同額となっています。

スキー場の 1 人当たりのコスト (H21 年度～H24 年度)

施設名	平均トータルコスト(千円)	平均利用者数(人)	1人当たりのコスト (円／人)
飯綱高原スキー場	169,585	45,781	3,700
戸隠スキー場	393,333	102,700	3,830

イ キャンプ場

4年平均の利用者1人当たりのコストをみると、施設規模が一番大きい戸隠キャンプ場が 1,960 円／人となっています。平均トータルコストは約 8,800 万円ですが、平均利用者数が約 4.5 万人と多いことから、低くなっています。

飯綱高原キャンプ場は約 1,160 円／人と、最も低く、平均利用者数の少ない聖山パノラマオートキャンプ場は約 6,460 円／人と最も高くなっています。

キャンプ場の 1 人当たりのコスト (H21 年度～H24 年度)

施設名	平均トータルコスト(千円)	平均利用者数 (人)	1人当たりのコスト (円／人)
飯綱高原キャンプ場	4,381	3,792	1,160
戸隠キャンプ場	87,957	44,967	1,960
荒倉キャンプ場及び 戸隠民舞伝習施設	4,190	1,217	3,440
聖山パノラマオートキャンプ場	9,417	1,459	6,460

(5)まとめ

スキー場、キャンプ場は、合併により旧村の施設を引き継ぎ、現在、飯綱高原と戸隠の2つのスキー場と、飯綱高原、戸隠、荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設、聖山パノラマオートキャンプ場の4つのキャンプ場があります。

建物の状況は、1983年(昭和58年)の荒倉キャンプ場及び戸隠民舞伝習施設が最も古い施設となっており、近年の整備では2010年(平成22年)に戸隠キャンプのログキャビンの改築などを行っています。

スキー場とキャンプ場の4年間の平均利用者数は、全体で約20万人となっています。

戸隠スキー場は県外客・宿泊型の利用が主流で、飯綱高原スキー場はファミリー層を中心に利用されています。

キャンプ場は、施設規模が大きく設備などが充実している戸隠キャンプ場の利用者が増加しています。荒倉キャンプ場は、平成26年度からの地元への移管に向け、協議を進めているところです。

平成24年度のスキー場、キャンプ場の全体のトータルコストは約6.8億円で、スキー場が約5.6億円、キャンプ場が約1.2億円です。

スキー場、キャンプ場は、中山間地域の観光や雇用など地域産業の振興や地域の活性化など重要な役割を担っていることから、更なる利用者の増加に向けた取り組みが求められます。

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

【その他の施設】

(1) 概要

観光・レジャー施設の中には、温泉保養・宿泊施設、スキー場、キャンプ場施設のほかに16の施設があります。これらの施設は、動物園や自然を生かした集客などを目的とする観光交流施設、休養や娯楽などを目的とするレクリエーション施設、コンサート・イベントなど多目的に活用される多目的施設に分けられます。

このうち、茶臼山動物園は、市制施行80周年記念事業の一環として開園し、近隣市町村などからも多くの利用があります。また、旧茶臼山自然史館は、動物園北口と駐車場を結ぶモノレールの駅として改修され、平成25年4月末より利用されています。

市有施設最大規模の長野オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)は、1998年(平成10年)第18回冬季オリンピック大会時にはスピードスケート会場として使用され、現在、冬期間はアイスアリーナとして一般開放しているほか、各種スケート大会会場として使用され、他のシーズンは、各種スポーツ、コンサート、展示会等多目的に利用されるなど、地域経済の発展に寄与しています。

平成24年度のその他の施設全体の利用者は、約94.3万人です。

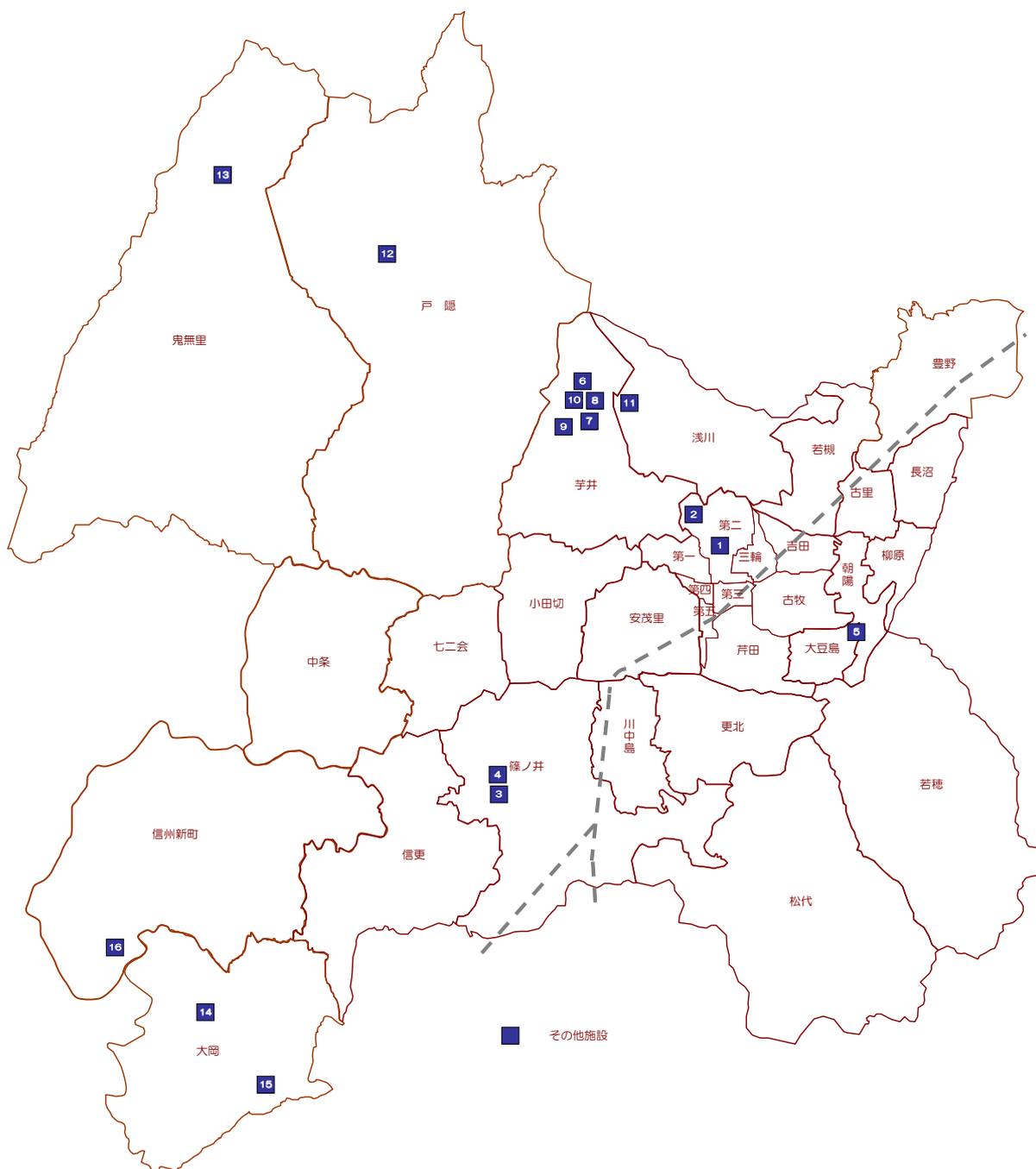
その他の施設一覧

施設名称	所在地区	単複	運営	建築年	建物延床面積(m ²)	階層	主たる構造	施設形態
1 茶臼山動物園城山分園	第二	単独	指定	1981年9月	904	1	W造	観光交流
2 大峰城(※休館)	第二	単独	直営	1962年11月	456	4	RC造	観光交流
3 茶臼山動物園	篠ノ井	単独	指定	1983年8月	4,903	2	S造	観光交流
4 旧茶臼山自然史館	篠ノ井	単独	直営	1985年7月	843	2	RC造	観光交流
5 エムウェーブ	朝陽	単独	指定	1996年11月	76,223	3.B1	RC造	多目的
6 ハイランドホール飯綱	芋井	単独	指定	1989年1月	1,190	2	S造	観光交流
7 小天狗の森フィールドアスレチック	芋井	単独	指定	1978年8月	—	—	—	レクリエーション
8 飯綱高原ポート場	芋井	単独	指定	2002年8月	12	1	W造	レクリエーション
9 飯綱高原テニスコート	芋井	単独	指定	1982年8月	71	1	W造	レクリエーション
10 飯綱高原東グラウンド	芋井	単独	指定	1993年12月	37	1	W造	レクリエーション
11 飯綱高原南グラウンド	芋井	単単	指定	1984年8月	71	1	W造	レクリエーション
12 どんぐりハウス(鏡池)	戸隠	複合	指定	1992年3月	449	1	W造	観光交流
13 奥裾花観光センター(鬼無里山岳公園)	鬼無里	複合	直営	1992年11月	482	2	W造	観光交流
14 大岡アルプス展望公園施設	大岡	単独	指定	1993年3月	286	2	S造	観光交流
15 聖山パノラママレットゴルフ場	大岡	単独	指定	2003年7月	32	1	W造	レクリエーション
16 信州新町ふれあい公園	信州新町	複合	指定	1991年3月	1,197	1	W造	レクリエーション
合計					87,157			

※ 建物延床面積は、小天狗の森フィールドアスレチックを除く15施設の面積を合計です。

※ 大峰城は、平成19年12月より休館しています。

その他の施設の配置状況



※ 図表の番号は、その他の施設一覧表の番号と対応しています。

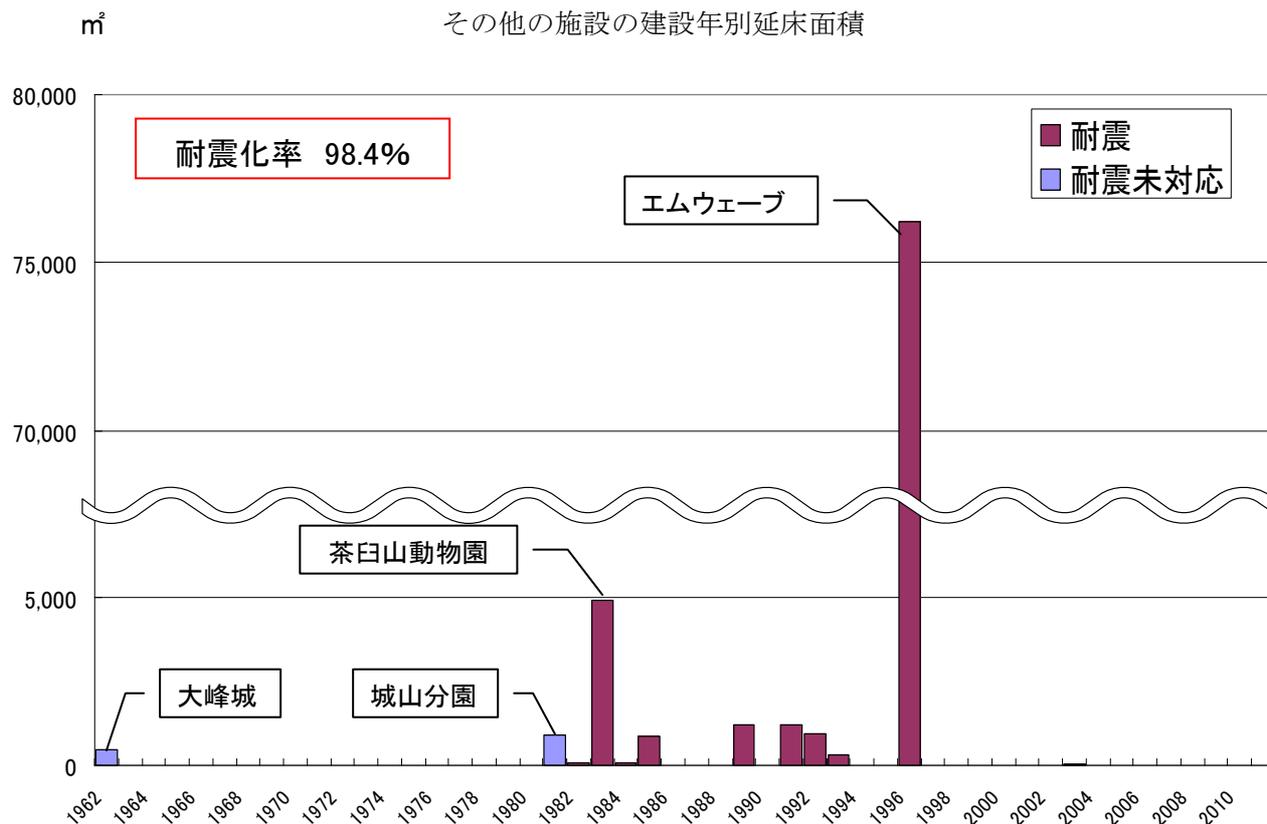
第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

(2) 建物の状況

建設年別の延床面積のグラフを見ると、エムウェーブは、1996年(平成8年)に延床面積約7.6万㎡(アリーナ面積は、約1.7万㎡)で建築され、築17年を経過しています。

また、1962年(昭和37年)建設された大峰城(休館中)が最も古く、築51年を経過しています。この他、築30年以上経過しているのは茶臼山動物園城山分園で、耐震未対応となっています。



長野オリンピック記念アリーナ (エムウェーブ)

(3) 施設の利用状況

① 観光交流施設

観光交流施設は野外施設であり、その利用者数は天候などに左右されるため、4年間の平均利用者数をみると、全体で約54万人となっており、その9割強を茶臼山動物園2園の利用者が占めています。

なお、奥裾花観光センター(鬼無里山岳公園)とどんぐりハウス(鏡池)は、積雪のため冬期間は閉鎖しています。

観光交流施設の利用者数

施設名称	年間利用者数(人)				
	21年度	22年度	23年度	24年度	平均
茶臼山動物園	206,097	200,195	230,610	217,652	213,639
茶臼山動物園城山分園	272,995	280,080	294,116	277,349	281,135
ハイランドホール飯綱	2,608	2,448	2,115	3,117	2,572
大岡アルプス展望公園施設	1,470	1,390	1,120	1,280	1,325
奥裾花観光センター(鬼無里山岳公園)	33,933	28,949	20,927	18,459	25,567
どんぐりハウス(鏡池)	17,488	16,210	16,262	16,448	16,602
合計	534,591	529,272	565,150	534,305	540,830

※大峰城、旧茶臼山自然史館は除いています。

第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

② レクリエーション施設

レクリエーション施設の平均利用者数をみると、全体で約 3.2 万人となっています。

なお、聖山パノラマレットゴルフ場、飯綱高原の小天狗の森フィールドアスレチック及びボート場は、冬期間の利用はできません。

レクリエーション施設の利用者数

施設名称	年間利用者数(人)				
	21年度	22年度	23年度	24年度	平均
信州新町ふれあい公園	4,107	6,623	6,817	5,645	5,798
聖山パノラマレットゴルフ場	3,682	2,648	2,156	1,633	2,530
小天狗の森フィールドアスレチック	12,700	15,632	13,595	12,370	13,574
飯綱高原ボート場	6,356	6,577	5,293	7,856	6,523
飯綱高原テニスコート	1,159	1,243	1,087	1,608	1,274
飯綱高原東グラウンド	2,518	1,100	974	1,467	1,515
飯綱高原南グラウンド	1,249	910	1,776	2,265	1,550
合計	31,771	34,733	31,698	32,853	32,764

③ 多目的施設(エムウェーブ)

エムウェーブの平均利用者数は約 38 万人です。冬季はアイスアリーナとして一般開放しているほか、スピードスケートのナショナルトレーニングセンター、各種スケート大会会場として使用され、冬季平均の利用者数は約 9.6 万人となっています。他のシーズンは、各種スポーツ、コンサート、展示会など多目的に利用されています。

なお、施設の管理運営は、平成 10 年7月から株式会社エムウェーブに委託し、現在も引き続き指定管理者として業務を行っています。

多目的施設の利用者数

施設名称	年間利用者数(人)				
	21年度	22年度	23年度	24年度	平均
エムウェーブ	408,196	376,261	370,848	375,901	382,802
()内は、冬季スケート場の利用者内数	(100,767)	(91,768)	(98,336)	(92,984)	(95,964)

(4) コストの状況

①概要

平成 24 年度のエムウェーブの施設維持管理費と事業運営費は約4億円で、減価償却費を含めたトータルコストは約 10.2 億円となっています。また、動物園の施設維持管理費と事業運営費は約 3.5 億円で、減価償却費を含めたトータルコストは約 3.7 億円になっています。

その他の施設のコスト

(金額単位：千円)

施設名		動物園	エムウェーブ	その他
I 現金収支を伴うもの		2	1	13
【コストの部】				
	延床面積	5,807	76,223	5,127
施設維持管理費	修繕費	10,567	17,108	411
	工事請負費	4,935	※1	457
	光熱水費	28,554	136,773	3,647
	建物管理委託料	20,580	168,457	13,243
	人件費(概算)	73,549	40,232	8,457
	その他の経費	700	3,068	1,746
	施設維持管理費 計	138,885	365,638	27,961
事業運営費	人件費(概算)	147,681	※2	31,185
	業務委託料	3,340		8,241
	その他物件費等	58,317	34,399	17,222
	事業運営費 計	209,338	34,399	56,648
現金収支を伴うコスト計 ①		348,223	400,037	84,609
【収益の部】				
利用料金等	市	1,001	10,417	14,027
	指定管理者	71,016	190,783	22,140
収益計 ②		72,017	201,200	36,167
II 現金収支を伴わないもの				
【コストの部】				
減価償却費 ③		17,548	625,263	19,460
III 総括				
トータルコスト(①+③) ④		365,771	1,025,300	104,069
収支差額(④-②)		293,754	824,100	67,902

※1 大規模改修は除いています。

※2 施設維持管理費の人件費及び建物管理委託料に含まれます。

第5章 施設分類別の状況

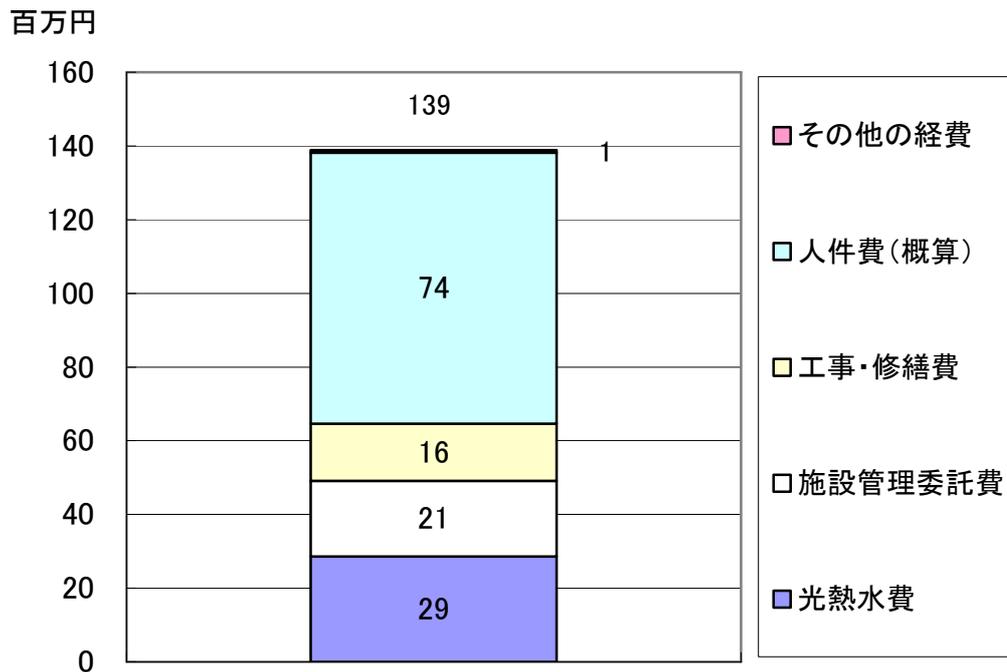
3. 観光・レジャー施設

②維持管理費の状況

ア 動物園

動物園2園の施設維持管理費は約1.4億円となっており、動物飼育などにかかる人件費の占める割合が高くなっています。茶臼山動物園が約0.9億円、城山分園が約0.5億円となっています。

動物園の維持管理費



茶臼山動物園

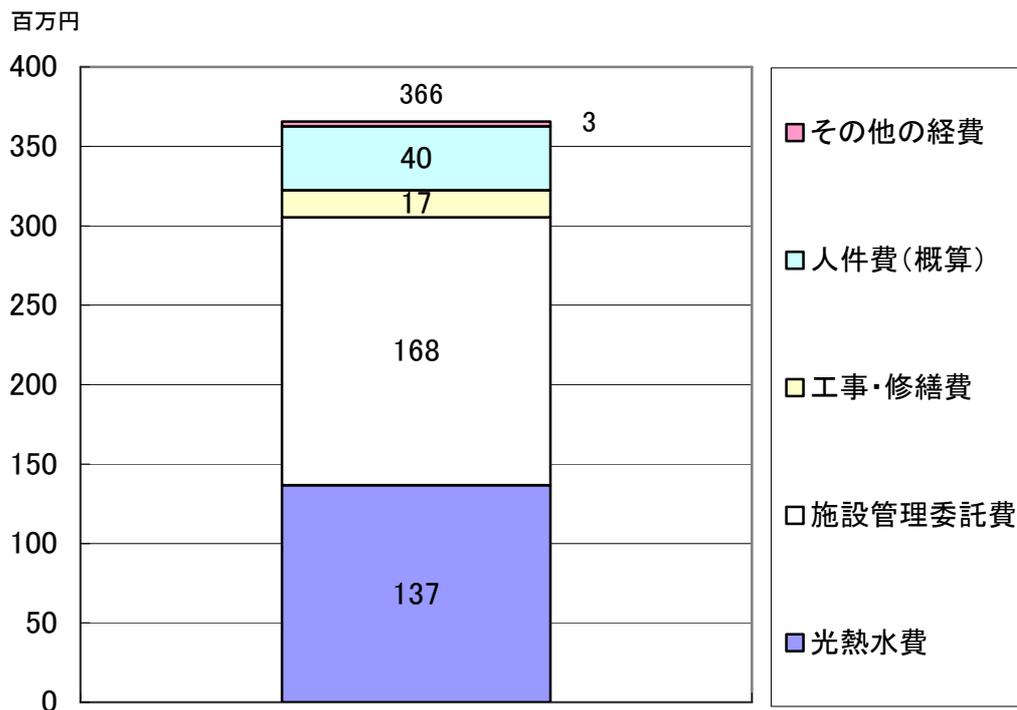


茶臼山動物園城山分園

イ エムウェーブ

エムウェーブの施設維持管理費は約 3.7 億円です。主な経費は、光熱水費が約1.4 億円、建物管理委託料が約1.7 億円となっています。なお、建物管理委託料は、年間を通した施設管理委託料約 7,100 万円に加え、例年9月から翌年3月までアイスアリーナとして利用するための製氷作業などの委託料約 8,600 万円が主なものです。

エムウェーブの施設維持管理費



施設維持管理費のうち、工事・修繕費は、経常的に支出される経費を対象とし、大規模な改修工事等にかかる臨時的な支出は除いています。

最近の大規模改修(臨時的な支出)として、平成 24 年度には、ガスエンジンフルオーバーホールや空調・照明設備改修工事などに約 2.6 億円、平成 22 年度には、大型映像装置改修やガスエンジン廃熱熱交換機交換などに約 2.7 億円の支出があります。

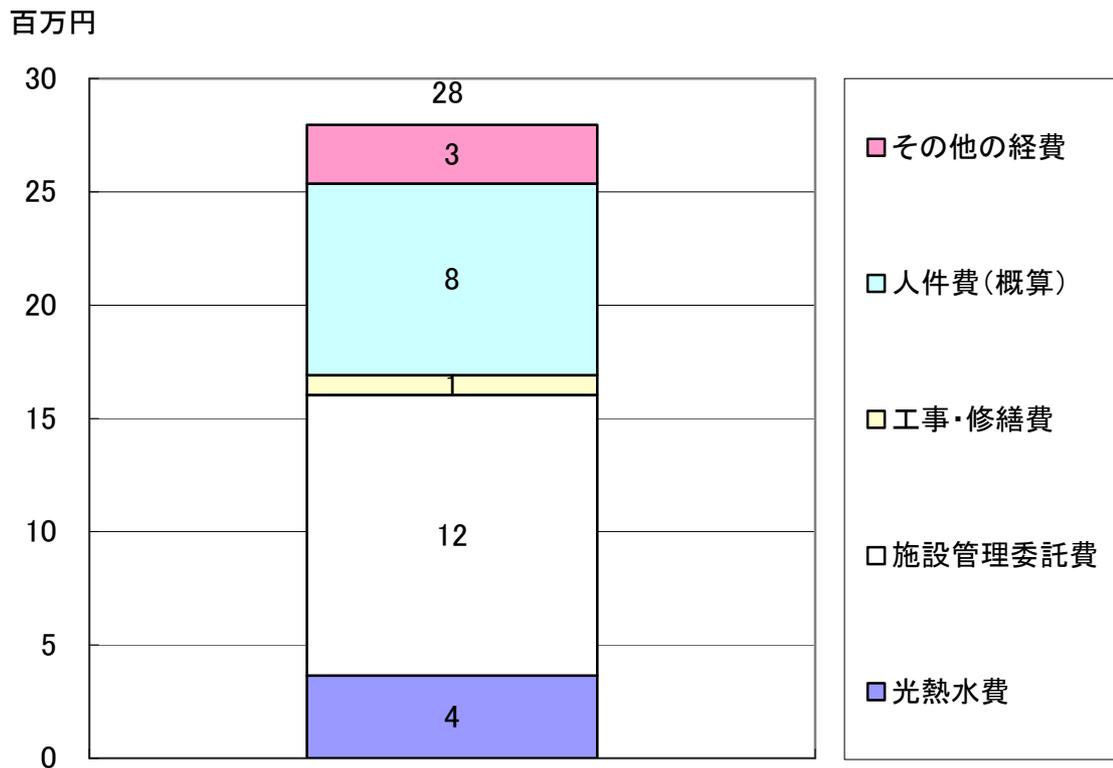
第5章 施設分類別の状況

3. 観光・レジャー施設

ウ その他の施設

その他の13施設の施設維持管理費は、全体で約2,800万円となっています。施設管理委託費と人件費の割合が高くなっています。

その他の施設の維持管理費



③利用者1人当たりのコスト

ア 動物園

平成21年度から平成24年度の4年間平均のトータルコストと利用者数から、利用者1人当たりのコストを算出すると、茶臼山動物園は約1,300円/人、城山分園は約340円/人となっています。

動物園の利用者1人当たりのコスト (H21年度～H24年度)

施設名	平均トータルコスト(千円)	平均利用者数(人)	1人当たりのコスト (円/人)
茶臼山動物園	275,283	213,639	1,290
茶臼山動物園城山分園	95,790	281,135	340

イ エムウェーブ

エムウェーブの4年間平均トータルコストと利用者数から、利用者1人当たりのコストを算出すると、2,660円/人となっています。

エムウェーブの利用者1人当たりのコスト（H21年度～H24年度）

施設名	平均トータルコスト(千円)	平均利用者数(人)	1人当たりのコスト (円/人)
エムウェーブ	1,016,513	382,802	2,660

※エムウェーブは、国からナショナル・トレーニングセンター委託料として、平成24年度約1億円の委託金が支払われています。

ウ その他の施設

その他の施設の利用者1人当たりのコストは、以下のとおりです。

その他の施設の利用者1人当たりのコスト（H21年度～H24年度）

施設名	平均トータルコスト(千円)	平均利用者数(人)	1人当たりのコスト (円/人)
ハイランドホール飯綱	21,696	2,572	8,440
大岡アルプス展望公園施設	10,092	1,315	7,670
奥裾花観光センター (鬼無里山岳公園)	26,467	25,567	1,040
どんぐりハウス	20,876	16,602	1,260
信州新町ふれあい公園	2,300	5,798	400
聖山パノラマレットゴルフ場	1,409	2,530	560
飯綱高原ボート場	2,323	6,523	360
飯綱高原東テニスコート	3,605	1,274	2,830
飯綱高原東グラウンド	2,685	1,515	1,770
飯綱高原南グラウンド	4,139	1,550	2,670

※大峰城、旧茶臼山自然館、小天狗の森フィールドアスレチックは除いています。

(5)まとめ

観光・レジャー施設の中には、温泉保養・宿泊施設、スキー場、キャンプ場施設のほかに16の施設があります。これらの施設は、動物園や自然を生かした集客などを目的とする観光交流施設、休養や娯楽などを目的とするレクリエーション施設、コンサート・イベントなど多目的に活用される多目的施設に分けられます。

1996年(平成8年)に延床面積約7.6万㎡で建築されたエムウェーブは、1998年(平成10年)第18回冬季オリンピック大会時には、スピードスケート会場として使用され、現在、冬季はアイスアリーナとして一般開放しているほか、スピードスケートのナショナルトレーニングセンター、各種スケート大会会場として使用され、他のシーズンは、各種スポーツ、コンサート、展示会など年間平均約38万人に利用されており、地域経済の発展に寄与しています。

エムウェーブの年間施設維持管理費は約3.7億円ですが、このほかに大規模改修(臨時的な支出)として、平成24年度には、ガスエンジンフルオーバーホールや空調・照明設備改修工事などに約2.6億円、平成22年度には、大型映像装置改修やガスエンジン廃熱熱交換機交換などに約2.7億円の支出があります。

茶臼山動物園及び城山分園は、市内はもとより近隣市町村からも多くの利用者があり、年間平均利用者数は約50万人となっています。

エムウェーブや動物園のように、市内はもとより広域圏から多くの利用者があり、観光や地域経済に与える影響の大きい施設は、さらに利用者数を伸ばす取り組みが求められます。

一方で、中山間地域に位置する施設は、今後、人口減少や少子高齢化の進展に伴い、利用者数は減少していくことが予測されますが、これらの施設は中山間地域の活性化の役割も担っていることから、将来の施設のあり方については、地域に対する影響を踏まえながら検討していく必要があります。